

宇都宮市立東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」の肯定割合は87.9%と県の肯定割合を6.3ポイント上回っている。分かる喜びや知る楽しさを実感できるような授業を心掛けることで、さらに学習の楽しさを実感し児童の学習意欲が高まるようにしていきたい。

○「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定割合は75.7%で県の肯定割合を9.5ポイント上回り、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定割合は63.7%と県の肯定割合を7.5ポイント上回っている。日頃の各教科の学習や総合的な学習の時間を通して、自己解決の方法を学ぶとともに、知る喜びや分かる楽しさを実感できるよう、課題設定や発問の仕方をさらに工夫していきたい。

○「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定割合は87.9%と県の肯定割合を14.1ポイント上回っている。今後はさらに分からないことを友達に聞いたり、クラス全体で考えたり、みんなで考えるクラスの雰囲気作りを心掛けていきたい。

○「自分には良い所があると思う」の肯定割合は87.8%で県の肯定割合を7.1ポイント上回っている。個々の良い面を見逃さず、その都度全体で紹介したり、個を尊重するようなプラスの言葉かけをしたりすることでさらに自己肯定感を高めていけるようにしたい。

●「家で勉強するときに、だいたい同じ時こくに取り組むようにしている」では、肯定割合が42.4%と県の肯定割合を19.5ポイント下回っており、家庭学習に取り組む時刻が一定ではないことが分かる。家庭学習の定着と質(内容)の充実が図れるよう、継続的に指導をするとともに、家庭への啓発を行っていきたい。

●「学習に対して自分から取り組んでいる」の肯定割合が63.6%と県の肯定割合を10.2ポイント下回っており、「授業を集中して受けている」の肯定割合は84.8%と県の肯定割合を6ポイント下回っている。細かく課題を提示したり、時間を区切ったりするなど、児童が集中して学習に取り組めるよう普段の授業を工夫していきたい。

●「次の教科の問題を解く時間は十分で仕方」の国語の肯定割合は51.5%、算数の肯定割合は54.6%と、県の肯定割合を大きく下回っており、問題が最後まで終わらなかった児童が多くいる。文章を読む速さや計算の速さなど基本的な学習スピードをあげたり、時計を見て時間配分を考えたりできるよう、学習支援をしていきたい。